

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	奈良県	市町村名	イカルガチョウ 斑鳩町	地区名	ホウリュウジエキシユウヘテク JR法隆寺駅周辺地区	面積	270 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標

- 大目標：悠久の歴史文化遺産と自然资源を活用したまちづくりの推進
 目標1 駅と駅前広場整備を運動させた利便性の高いターミナル機能の強化を図り、快適な生活基盤を供給する。
 目標2 観光客(歩行者)に楽しく安全安心な歩行空間を提供し、集客力の強化を図る。
 目標3 歴史的文化遺産をコアとした文化育成拠点の保存・活用整備を行う。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

斑鳩町は標高316mの松尾山を最高点とする山地部から大和川に至る南に向かって、なだらかな傾斜を持ち、山地、丘陵、平野にバランス良く3分されており、自然環境を守るために自然環境保全地区、近郊緑地保全区域、歴史的風土保存区域、風致地区などが指定されている。また、町内には法隆寺、法輪寺、法起寺、中宮寺をはじめ藤ノ木古墳などのロマンあふれる古墳群など世界に誇る歴史的遺産が点在し、豊かな自然環境と調和して広く「斑鳩の里」の名で親しまれている。平成5年には、法隆寺地域の仏教建造物が世界文化遺産に登録され斑鳩町全体が持つ歴史的な価値があらためて内外に注目されることになった。このような背景にあって、まちづくりのテーマ(将来像)として『一人ひとりが創り出すまち、歴史と文化がくらしの中に息づく新斑鳩の里』を設定し、「世界文化遺産のあるまち」として、町民憲章にかかる「和」の精神を尊び、その歴史的風土を生かした斑鳩らしさを住民と共に創出し、愛すべきふるさと"新斑鳩の里"を未来へ引き継ぐことをを目指している。そうした中で当地区内のJR法隆寺駅・駅前広場は、歴史的価値の高い町の玄関口として多くの観光客が集まる場であると同時に、人々の交流拠点や周辺施設へのアクセス拠点でもあり、斑鳩を初めて訪れた人にその町のイメージを最初に印象づける場でもあることから、これにふさわしい駅周辺の整備が求められている。現在JR法隆寺駅舎橋上化事業(平成18年度完成予定)を実施中であり、駅前広場や駅周辺道路網の整備にも取り組んでいるところである。加えて駅を起点とした観光動線の機能強化を図るとともに観光資源を活かした施設整備など観光基盤も合わせて整備し、ハイオリティーな面的整備を実施していく。

課題

- 駅前の道路網としては狭小な道路が錯綜しており、県道や主要な道路へのアクセス機能が弱く、都市基盤も整っていない。
- 観光客数の推移は停滞気味でこのような状態に歯止めをかける必要がある。
- 歴史・文化遺産の宝庫として、その豊かな資源を活用できておらず、学習施設も整っていない。

将来ビジョン(中長期)

- 法隆寺駅と周辺地区の基盤、景観整備等を通して、安全で暮らしやすい潤いのある町として地域住民や来訪者に提供する。
- 高齢者等に配慮したユニバーサルデザイン化、安全性を確保した歩道整備等、人にやさしい歴史的資源への案内を確実に行い、各主要観光拠点や事業の相互の連携を図ることで来訪者の回遊性を高める。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基 準 年 度	目 標 値	目 標 年 度
JR法隆寺駅乗降客数	人/日	1日当りの乗降客数(西日本旅客鉄道株式会社による)	駅周辺のにぎわいの創出により、来訪者の増加が見込まれる。	19,000	平成18年度	20,000	平成22年度
QRコード利用回数	回/年	1年間の使用回数(斑鳩町役場による)	来訪等における集客力向上の効果を計る。	0	平成19年度	6,200	平成22年度
文化財活用センター利用者数	人/年	1年間の利用者数(文化財活用センターによる)	藤ノ木古墳周辺地区に生涯学習施設を設置することにより、法隆寺以外の回遊性向上が見込まれる。	0	平成20年度	6,200	平成22年度